
日常の中で

神夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

日常の中で

【Nコード】

N0300B

【作者名】

神夢

【あらすじ】

公立高校に通う周藤直登^{すどうなおと}と神美滯^{かみびみお}の青春恋愛ストーリー。夏休みに何が起こるのか。

始まり

暑い……体中から汗が噴出しているのが分かる。
外が明るい。

窓から指す日の光と暑さで目が覚めた。
脳が完全に覚醒しきっていない、視界がぼやけ、意識が睡魔に飲み込まれようとしている。

「あゝ……」

活動を拒絶する身体を引き摺り、時刻を確認する。
針は12時48分を指している

「んあ? ……」

時が経つに連れて脳が正常さを取り戻していく。
ここは俺の部屋、広さは十畳位でテレビやタンスなどが鎮座している。

俺はその片隅にあるベッドの上に座っていた。

「ヤッベェ!!!!!!遅刻だ!!!!!!」

と、急いで見たもののもう間に合うはずが無い。
考えると行動意欲が失せていった。

「別に慌てなくてもいいか……」

そう思うと今度は押さえ込んだはずの眠気に襲われた。

「……………」

段々と何もする気がなくなっていく。

「……寝よ……」

よろよろとベッドへと向かい、倒れこむ。

薄れ行く意識。

残り少ない意識の中で何かが引っ掛かっていた。

必死に思い出そうとするが、睡魔の攻撃が激しい。

なかなか思い出せない。

「……………なんだったっけ……………」

睡魔に飲み込まれないように声に出してみる。

「あゝ、そうだ今日あいつの誕生日パーティーだ……………」

そうだった、今日はあいつ、かみびみお神美滯の誕生日だ。

すっかり忘れてた。

恐らく怒ってるだろうな、何せ誕生日パーティーは俺のバイトの都合上11時からとなっている。

「最悪だな…………俺……………」

バイトも寝てサボったも同然だし、誕生日パーティーもすっぱかす、嫌われただろうな…………

「まだあいつらいるかなあ……………」

パーティーが終わるのは雰囲気で“そろそろ終わりだな”と思った
ら終わるので、正確にいつ終わるかは分からない。
なんとなく、ただなんとなくまだ残っている事に賭けて濫宅へと向
かう事にした。

「行っって見るか・・・」

俺はそのそと起き上がり、支度を始める。

数分で着替え・軽食・身だしなみをこなし、外に出る。

何せ急いでいたものだから格好にはあまり気をかけられなかった。

深緑のタンクトップにジーパン、その上に白の上着を着たなんとも
ラフな格好である。

ちよつとした装飾品も着けているが、ラフには変わりはない。

日差しが眩しく、寝起きの眼球に多大な被害を与えている。

「暑いな……」

眩き、俺は歩き出した。

始まり（後書き）

どうも、初めまして神夢と申します m（　　） m

いかがだったでしょうか？

この小説「日常の中で」は私が本気でラノベ作家を志した当初の作品です。

今読み返すと鳥肌が立つほどの駄文です、まあちよちよいと変更はしましたので少しは読みやすくなったかと思いますが：

ちまちまと書き続け早五ヶ月、まだまだ未熟ではありますが日々精進していきます。

そんな私にアドバイスなんかをとったりしてる今日この頃。

それではまた会いましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0300b/>

日常の中で

2011年1月25日07時22分発行